

## 令和2年度 函館あおい認定こども園 自己評価・学校関係者評価表（10段階評価）

評価分類	評定	内 容
保育の計画性	8.6	園の教育理念や教育・保育方針を理解している。
	8.6	園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる。
	7.6	幼児の生活が豊かになるような行事を、幼児の実態に合わせて精選している。
	7.7	指導・保育計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成をしている。
	8.8	保育教師の願いや意図をもって環境構成をしている。
	7.8	自分の保育と計画の評価・反省は、行うようにしている。
	7.4	幼児が自ら活動を生み出していけるような素材との出会いを考えている。
保育のあり方・幼児への対応	7.9	園内に危険な個所がないかどうか、危険な遊び方はないかななどを常に観察している。
	7.6	幼児同士のかかわりの中で、その姿の内にある心の動きについても、推察するようにしている。
	7.8	個々の幼児の発達の様子や課題について見通しをもって理解できる。
	8.5	一人一人と集団の関係を、常に考えながらかかわっている。
	8.7	クラスに関係なく、その場にいた教師が適切な言葉かけや対応をしている。
	7.8	クラス的环境構成などについても、お互いに意見を交換している。
	8.2	幼児のことについて、常に保育教諭同士で話し合い、クラス・学年をこえて情報を共有している。
資質・能力・良識・適性	7.8	締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守っている。
	8.2	クラス内はもちろん、園内外の清掃や整理整頓を実行している。
	9.0	教職員全員でひとつのチームであることを意識している。
	7.5	会議の時は、自分の意見や質問を前もって考えている。
	7.5	保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことをわかりやすく話すことができ、保護者との信頼関係を作ることに努めている。
	8.3	自らの健康にも配慮し、つめが伸びていないかどうか等、保育をする上での安全性にも気をつけている。

評価分類	評定	内 容
保護者への対応	8.7	個々の子どもの様子は直接話を行い、電話・連絡帳などを使って伝え合っている。
	7.4	保護者の要望等を受け止めて実行する場合は、そのことの保育要素・教育的な意義付けを、はっきりとさせてからにしている。
	8.6	自分の考えをきちんと話し、保護者の話に関心をもちよく聞く。
研修と研究	7.8	研究保育を参観する時は、自分なりの課題と視点をもって観ている。
	7.2	自分なりの幼児観・保育観の確立のための研修・研究を行っている。
	7.7	園内の環境を、いくつかのまとまりや、関連性を持たせて保育の計画・実践に生かすことができる。

## ～学級経営反省点～

### 【幼稚部】

- 満3歳児クラスの担任として、子どもたちとかわって来た。クラス在籍数が少な目であったため、一つひとつが自分自身で気が付くことが多く、丁寧にかかわれたと感じた。年齢が低いこともあって、個々の成長の差はあるが、一人ひとりが自分の力を発揮し、仲間意識も強くなるようなクラスになったと感じた。(17年目：保育教諭)
- 一人ひとりの個性や特徴が、成長と共に強くなり、様々な場面で個別支援が必要だと感じるようになった。一対一での援助や支援が必要な場合が多いため、クラス全体での活動を予定通りにすすめることが難しかった。また、コミュニケーションの取り方等に個人差がある中で、こちらからの保護者に対する説明が上手い出来ないこともあった。来年度は今回のことをしっかりと振り返りをし、活かせるようにしていきたいと思う。(16年目：保育教諭)
- 子どもたちが成長した分、友達と一緒に好きな遊びを楽しむことが多くなり、ごっこ遊びへと展開することができた。その中で友達の力を借りながら苦手な事にも挑戦しようとする姿も見られるようになった。(16年目：保育教諭)
- 食事の面で不安になる子や、食に興味がない子に対して、食事を楽しみ喜びがもてるような工夫が足りなかったように思う。次年度に活かしていきたい。(5年目：保育教諭)
- 年長組に進級当時、前の年長さんがどのようにみんなにかかわってくれたか振り返り、友達にしてもらい嬉しかったことを話し合う機会を多く作った。一人ひとりが周囲に目を向け、友達や小さい組へも優しく接したいという姿勢や協調性が大きく育ったと感じた。このことをきっかけに、相手の気持ちを考えるようになり、優しい言葉で伝えたいという変化にも繋がり、以前から課題であった「思いを言葉で伝える力」が大きく成長したと思う。(5年目：保育教諭)
- 友達とのかかわり合いの中で、見えづらい部分でトラブルが起きてしまった際に、自我が強い子が優位に立ってしまうことがあった。話し合いの際に、「自分の思い」「相手の思い」をお互いに伝え合いながらすすめられるような援助をこれからも大切にすすめていき、継続的に行っていきたい。(3年目：保育教諭)
- 製作活動時の説明で、視覚的援助がもう少し多い方がクラス全体的にもスムーズな活動に結びついたのでないかと、思った。(1年目：保育教諭)

## 【保育部】

- クラス担任同士で情報、意見交換を密にすることを心がけ、共通認識をもって日々の保育に取り組むことができた。
- 保護者に対して、わかりやすく明確に連絡事項を伝えることが上手いかなんかがあり、誤解を招くこともあり、対応の難しさを感じた。（以上、2年目：保育教諭）
- 食事や排泄は、一人ひとりに合わせてじっくりと取り組むことができたと思う。特に排泄の場面では、同じクラスの友達と一緒に取り組むことで、前向きに行うことができた。
- 後半、保育者に甘える姿を見せることも多くなり、話を聞くことができなくなったり、けじめがつけられなくなったりする場面もあった。基本的な生活習慣やクラスでの約束事を、常に意識しながら子どもたちと確認をしながら、伝えられるようにしていかなければならないと感じた。（以上、2年目：保育教諭）
- 前半はほとんどの子が言葉でのやりとりが出来ず、そのための気持ちのぶつかり合いから、手が出てしまうことも多く、安全面については保育教諭間で、その都度話し合い対応してきた。また、月齢を追う毎に反抗期もあり、その度に個々と向き合いながらどうしたら気持ちよく過ごせるかを考え伝えていった。自分なりに一人ひとりの気持ちを受け止め、丁寧な援助をすすめていくことを心がけた。（2年目：保育教諭）
- 危険予測を保育教諭間で共有することが難しいことがあった。その都度保育を振り返り、次へ向けての打ち合わせを密にしていくことで少しずつケガ等も回避することができていった。話し合いや声かけがとても大切だと感じた。（1年目：保育教諭）
- どの月齢の子どもも、体を十分に使った遊びや環境を来年度は更に工夫していきたい。（2年目：保育教諭）
- 2号認定児担当保育教諭として、午前中の子どもの遊びの状況をよく見極め、継続したり、重ならないようにしたりということに意識してすすめていった。異年齢児の集まる子どもたちの輪となるので、それぞれの成長に合わせた遊具や材料、遊びの流れをこれからもよく見ていきたい。（1年目：保育教諭）

## ～今後取り組みたい課題～

- スケジュールや視覚カード等を積極的に取り入れていきたい。また、他の専門機関の方とも連携を図り、子どもたちの発達に対するアドバイスや支援方法を学びたい。（16年目：保育教諭）
- 子どもたちの前では、どのような状況であっても余裕（ゆとり）がある保育者でいながら、日々の保育をすすめたいと感じる。（17年目：保育教諭）
- 保護者の思いを受け止めながら、「子ども・保護者・こども園」が一体となり、一人ひとりの子どもたちの成長へと繋がられるような援助を行っていきたい。（5年目：保育教諭）
- クラスで絵本を読む時間を上手に作る事ができず、気持ちを落ち着かせ、物語に親しみをもつような時間が少なかったことが心残りであった。想像力を膨らませ、少しの時間に楽しい話が出来るといった工夫をしたい。（5年目：保育教諭）
- クラス活動だけでなく、学年としての活動を少しずつ増やすことで、クラスの仲間意識を大事に出来るような保育をすすめていきたい。（3年目：保育教諭）
- 各クラスの状況・個々に合った保育や援助方法を、保育部として全員がわかっていて、誰でもいつでも対応ができるような体制作りを行っていきたい。（2年目：保育教諭）
- 子どもたちに対して質の良い保育をするためにも、遊びの環境を見直していきたいと思っています。毎日の遊びがパターン化していないか、戸外遊び・室内遊びのあり方を考えていきたい。そして、子どもたちの長時間保育の過ごし方を工夫していけるようにしたいと思う。（2年目：保育教諭）

## ～学校関係者からの評価～

- コロナ禍で、行事の内容が変わってしまっても、園の方針からはブレずに活動していただけと思っています。
- 新しい職員の方が増えた中でも、先生同士のつながりをしっかりと持って保育を行っていただけたと感じております。
- 早く「新型コロナウイルス」が終息して、「あおい」らしい行事や活動が出来るようになることを願っております。
- 教職員全員で「ひとつのチームである」ということを意識しているという自己評価を拝見し、保護者の立場から見てもチームワークの良さ、そして連携体制のすごさを感じます。また、先生同士の声掛けなども徹底していることも、拝見しています。
- 何よりも、子どもたちの事を一番に考えてのびのびと保育をすすめていただいていることに、有難く感じています。
- コドモンのアプリは、いつでもどこでもチェックすることが出来、大変便利だと思っております。行事によっては紙媒体でのお手紙でいただいた方が便利な時もありました。
- 園生活の中で突然起きてしまう出来事に対しての対応について反省されていることが読み取れましたが、一つひとつを課題とし、教員間での共通認識や、次年度以降への対策へとつなげようとしている前向きな部分が、在園児保護者としても安心できる部分だと感じております。
- 保護者へも臨機応変に対応してくださり、コロナ禍と言われた一年でも、安心して通園させられたことに感謝しています。
- 保育に対する真剣な思いが伝わってきました。担任の先生・サポートの先生はもちろんの事、他にもたくさんの先生にお世話になっている事を娘から聞いていて、クラス関係なく先生方全員で保育していただいていると感じていました。
- 園長先生はじめ、先生方、職員の皆様がいつも笑顔で明るく温かい雰囲気なのが「あおい」の魅力だと思います。言葉遣いも丁寧で温かく、子どもたちの気持ちの面をよく見てくださっているという印象です。これからも変わらず「あおい」らしい保育を続けていってほしいと思っております。
- H P の「あおいだより」の更新、アプリなどで最近の活動など伝えていただけると、園でどのような事をしているのかもわかりますし親子での会話も広がるかと思えます。
- コロナ禍で行事もいつもより少なく、あまり園に行く機会がありませんでしたが、その少しの時間でも「チームワーク」の良さが伝わってきました。それが子どもたちにも伝わり、みんなのびのび園生活を楽しめているのではないかと思います。来年度はコロナも少し落ち着いてくれることを祈り、園のために協力できる機会が増えるといいなと思っております。
- コロナ禍の中で行事等内容は変更しながらも、「運動会」「お遊戯会」「親子遠足」「参観日」等が出来たこと、大変感謝しております。
- コドモンを通じて、園から連絡がくるようになることが多くなりました。とても便利で外出先でも確認ができ便利でした。前日に「明日の持ち物」「明日の確認事項」等の連絡が、ある時とない時があったので、統一していただけるとよいと感じました。